

ヘブ1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、  
ヘブ1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。  
ヘブ1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。  
ヘブ1:4 御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。  
ヘブ1:5 いったい神は、かつて天使のだれに、“あなたはわたしの子わたしは今日、あなたを産んだ”と言われ、更にまた、“わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる”と言われたでしょうか。  
ヘブ1:6 更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、“神の天使たちは、皆彼を礼拝せよ”と言われました。  
ヘブ1:7 また、天使たちに関しては、“神は、その天使たちを風とし、御自分に仕える者たちを燃える炎とする”と言われ、  
ヘブ1:8 一方、御子に向かっては、こう言われました。“神よ、あなたの玉座は永遠に続き、また、公正の笏が御国の笏である。  
ヘブ1:9 あなたは義を愛し、不法を憎んだ。それゆえ、神よ、あなたの神は、喜びの油を、あなたの仲間に注ぐよりも多く、あなたに注いだ。”  
ヘブ1:10 また、こうも言われています。“主よ、あなたは初めに大地の基を据えた。もろもろの天は、あなたの手の業である。  
ヘブ1:11 これらのものは、やがて滅びる。だが、あなたはいつまでも生きている。すべてのものは、衣のように古び廃れる。  
ヘブ1:12 あなたが外套のように巻くと、これらのものは、衣のように変わってしまう。しかし、あなたは変わることなく、あなたの年は尽きることがない。”  
ヘブ1:13 神は、かつて天使のだれに向かって、“わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座っていなさい”と言われたことがあるでしょうか。  
ヘブ1:14 天使たちは皆、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになっている人々に仕えるために、遣わされたのではなかったですか。  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ2:1 だから、わたしたち聞いたことにいっそう注意を払わねばなりません。そうでないと、押し流されてしまいます。  
ヘブ2:2 もし、天使たちを通して語られた言葉が効力を発し、すべての違反や不従順が当然な罰を受けたとするならば、  
ヘブ2:3 ましてわたしたちは、これほど大きな救いに対してむとんちやくでいて、どうして罰を逃れることができましょう。この救いは、主が最初に語られ、それを聞いた人々によってわたしたちに確かなものとして示され、  
ヘブ2:4 更に神もまた、しるし、不思議な業、さまざまな奇跡、聖霊の賜物を御心に従って分け与えて、証しておられます。  
ヘブ2:5 神は、わたしたちが語っている来るべき世界を、天使たちに従わせるようなことはなさらなかったのです。  
ヘブ2:6 ある箇所、次のようにはっきり証されています。“あなたが心に留められる人間とは、何者なのか。また、あなたが顧みられる人の子とは、何者なのか。  
ヘブ2:7 あなたは彼を天使たちよりも、わずかの間、低い者とされたが、栄光と栄誉の冠を授け、  
ヘブ2:8 すべてのものを、その足の下に従わせられました。”“すべてのものを彼に従わせられた”と言われている以上、この方に従わないものは何も残っていないはずですが。しかし、わたしたちはいまだに、すべてのものがこの方に従っている様子を見ていません。  
ヘブ2:9 ただ、“天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた”イエスが、死の苦しみのゆえに、“栄光と栄誉の冠を授けられた”のを見ています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。  
ヘブ2:10 というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであつたからです。  
ヘブ2:11 事実、人を聖なる者とされる方も、聖なる者とされる人たちも、すべて一つの源から出ているのです。それで、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、

ヘブ2:12 “わたしは、あなたの名をわたしの兄弟たちに知らせ、集会の中であなたを讃美します”と言い、  
ヘブ2:13 また、“わたしは神に信頼します”と言い、更にまた、“ここに、わたしと、神がわたしに与えてくださった子  
らがあります”と言われます。

ヘブ2:14 ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、  
死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、

ヘブ2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした。

ヘブ2:16 確かに、イエスは天使たちを助けず、アブラハムの子孫を助けられるのです。

ヘブ2:17 それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべ  
ての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

ヘブ2:18 事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになる  
のです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ3:1 だから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち、わたしたちが公に言い現している使者であり、大祭  
司であるイエスのことを考えなさい。

ヘブ3:2 モーセが神の家全体の中で忠実であったように、イエスは、御自身を立てた方に忠実であられました。

ヘブ3:3 家を建てる人が家そのものよりも尊ばれるように、イエスはモーセより大きな栄光を受けるにふさわしい者と  
されました。

ヘブ3:4 どんな家でもだれかが造るわけです。万物を造られたのは神なのです。

ヘブ3:5 さて、モーセは将来語られるはずのことを証しするために、仕える者として神の家全体の中で忠実でした  
が、

ヘブ3:6 キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるな  
らば、わたしたちこそ神の家なのです。

ヘブ3:7 だから、聖霊がこう言われるとおります。“今日、あなたたちが神の声を聞くなら、

ヘブ3:8 荒れ野で試練を受けたころ、神に反抗したときのように、心をかたくなにしてはならない。

ヘブ3:9 荒れ野であなたたちの先祖はわたしを試み、験し、四十年の間わたしの業を見た。だから、わたしは、そ  
の時代の者たちに対して憤ってこう言った。‘彼らはずっと心が迷っており、わたしの道を認めなかった。’

ヘブ3:11 そのため、わたしは怒って誓った。‘彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない’と。”

ヘブ3:12 兄弟たち、あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、生ける神から離れてしまう者がないように  
注意しなさい。

ヘブ3:13 あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、“今日’という日のうちに、日々励  
まし合いなさい。――

ヘブ3:14 わたしたちは、最初の確信を最後までしっかりと持ち続けるなら、キリストに連なる者となるのです。――

ヘブ3:15 それについては、次のように言われています。“今日、あなたたちが神の声を聞くなら、神に反抗したとき  
のように、心をかたくなにしてはならない。”

ヘブ3:16 いったいだれが、神の声を聞いたのに、反抗したのか。モーセを指導者としてエジプトを出たすべての  
者ではなかったか。

ヘブ3:17 いったいだれに対して、神は四十年間憤られたのか。罪を犯して、死骸を荒れ野にさらした者に対して  
ではなかったか。

ヘブ3:18 いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、誓われたのか。従わなかった者に対  
してではなかったか。

ヘブ3:19 このようにして、彼らが安息にあずかることができなかつたのは、不信仰のせいであつたことがわたしたち  
に分かるのです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ4:1 だから、神の安息にあずかる約束がまだ続いているのに、取り残されてしまったと思われる者があなたがたのうちから出ないように、気をつけましょう。

ヘブ4:2 というのは、わたしたちにも彼ら同様に福音が告げ知らされているからです。けれども、彼らには聞いた言葉は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです。

ヘブ4:3 信じたわたしたちは、この安息にあずかることができるのです。“わたしは怒って誓ったように、‘彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない’”と言われたとおりです。もっとも、神の業は天地創造の時以来、既に出来上がっていたのです。

ヘブ4:4 なぜなら、ある箇所で七日目のことについて、“神は七日目にすべての業を終えて休まれた”と言われているからです。

ヘブ4:5 そして、この箇所でも改めて、“彼らを決してわたしの安息にあずからせはしない”と言われています。

ヘブ4:6 そこで、この安息にあずかるはずの人々がまだ残っていることになり、また、先に福音を告げ知らされた人々が、不従順のためにあずからなかったのですから、

ヘブ4:7 再び、神はある日を“今日”と決めて、かなりの時がたった後、既に引用したとおり、“今日、あなたたちが神の声を聞けず、心をかたくなにしてはならない”とダビデを通して語られたのです。

ヘブ4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたとするのなら、神は後になって他の日について語られることはなかったでしょう。

ヘブ4:9 それで、安息日の休みが神の民に残されているのです。

ヘブ4:10 なぜなら、神の安息にあずかった者は、神が御業を終えて休まれたように、自分の業を終えて休んだからです。

ヘブ4:11 だから、わたしたちはこの安息にあずかるように努力しようではありませんか。さもないと、同じ不従順の例に倣って墮落する者が出るかもしれません。

ヘブ4:12 というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。

ヘブ4:13 更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。

ヘブ4:14 さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。

ヘブ4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯さなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。

ヘブ4:16 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ5:1 大祭司はすべて人間の中から選ばれ、罪のための供え物やいけにえを献げるよう、人々のために神に仕える職に任命されています。

ヘブ5:2 大祭司は、自分自身も弱さを身にまとっているのです。無知な人、迷っている人を思いやることのできるのです。

ヘブ5:3 また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分自身のためにも、罪の贖いのために供え物を献げねばなりません。

ヘブ5:4 また、この光栄ある任務を、だれも自分で得るのではなく、アロンもそうであったように、神から召されて受けるのです。

ヘブ5:5 同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、“あなたはわたしの子、わたしは今日、あなたを産んだ”と言われた方が、それをお与えになったのです。

ヘブ5:6 また、神は他の箇所で、“あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である”と言われています。

ヘブ5:7 キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。

ヘブ5:8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。

ヘブ5:9 そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、

ヘブ5:10 神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。

ヘブ5:11 このことについては、話すことがたくさんあるのですが、あなたがたの耳が鈍くなっているのです、容易に説明に説明できません。

ヘブ5:12 実際、あなたたちは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。

ヘブ5:13 乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。

ヘブ5:14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ6:1 だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び治すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。

ヘブ6:3 神がお許しになるなら、そうすることにしましょう。

ヘブ6:4 一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかるようになり、

ヘブ6:5 神のすばらしい言葉と来るべき世の力を体験しながら、

ヘブ6:6 その後に墮落した者の場合には、再び悔い改めに立ち帰らせることはできません。神の子を自分の手で改めて十字架につけ、侮辱する者だからです。

ヘブ6:7 土地は、度々その上に降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ農作物をもたらすなら、神の祝福を受けます。

ヘブ6:8 しかし、茨やあざみを生えさせると、役に立たなくなり、やがて呪われ、ついには焼かれてしまいます。

ヘブ6:9 しかし、愛する人たち、こんなふうには話してはいても、わたしたちはあなたがたについて、もっと良いこと、救いにかかわることがあると確信しています。

ヘブ6:10 神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。

ヘブ6:11 わたしたちは、あなたがたのおのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。

ヘブ6:12 あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見做う者となってほしいのです。

ヘブ6:13 神は、アブラハムに約束をする際に、後自身より偉大な者にかけて誓えなかったもので、後自身にかけて誓い、

ヘブ6:14 “わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を大いに増やす”と言われました。

ヘブ6:15 こうして、アブラハムは根気よく待って、約束のものを得たのです。

ヘブ6:16 そもそも人間は、自分より偉大な者にかけて誓うのであって、その誓いはあらゆる反対論にけりをつける保障となります。

ヘブ6:17 神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画を変わらないものであることを、いっそうはっきり示したいと考え、それを誓いによって保証なされたのです。

ヘブ6:18 それは、目指す希望を待ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、二つの不変の事柄によって力強く励まされるためです。この事柄に関して、神が偽ることはありえません。

ヘブ6:19 わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる。安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです。

ヘブ6:20 イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ7:1 このメルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司でしたが、王たちを滅ぼして戻って来たアブラハ

ムを出迎え、そして祝福しました。

ヘブ7:2 アブラハムは、メルキゼデクにすべてのものの十分の一を分け与えました。メルキゼデクという名の意味は、まず“義の王”、次に“サレムの王”、つまり“平和の王”です。

ヘブ7:3 彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であって、永遠に祭司です。

ヘブ7:4 この人がどんなに偉大であったかを考えてみなさい。族長であるアブラハムさえ、最上の戦利品の中から十分の一を献げたのです。

ヘブ7:5 ところで、レビの子らの中で祭司の職を受ける者は、同じアブラハム依存であるにもかかわらず、彼らの兄弟である民から十分の一を取るように、律法によって命じられています。

ヘブ7:6 それなのに、レビ族の血統以外の者が、アブラハムから十分の一を受け取って、約束を受けている者を祝福したのです。

ヘブ7:7 さて、下の者が上の者から祝福を受けるのは、当然なことです。

ヘブ7:8 更に、一方では、死ぬはずの人間が十分の一を受けているのですが、他方では、生きている者と証しされている者が、それを受けているのです。

ヘブ7:9 そこで、言ってみれば、十分の一を受けるはずのレビですら、アブラハムを通して十分の一を治めたこととなります。

ヘブ7:10 なぜなら、メルキゼデクがアブラハムを迎えたとき、レビはまだこの父の腰の中にいたからです。

ヘブ7:11 ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、一一一というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから一一一といったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が◆

7,11-1,別の祭司が立てられる必要があるでしょう。

ヘブ7:12 祭司制度に変更があれば、律法にも必ず変更があるはずですが、

ヘブ7:13 このように言われている方は、だれも祭壇の奉仕に携わったことのない他の部族に属しておられます。

ヘブ7:14 というのは、わたしたちの主がユダ族出身であることは明らかですが、この部族についてはモーセは、祭司に関することを何一つ述べていないからです。

ヘブ7:15 このことは、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられたことによって、ますます明らかです。

ヘブ7:16 この祭司は、肉の掟の律法によらず、朽ちることのない命の力によって立てられたのです。

ヘブ7:17 なぜなら、“あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である”と証しされているからです。

ヘブ7:18 その結果、一方では、以前の掟が、その弱く無益なために廃止されました。一一一

ヘブ7:19 律法が何一つ完全なものにしなかったからです。一一一しかし、他方では、もっと優れた希望がもたらされました。わたしたちは、この希望によって神に近づくのです。

ヘブ7:20 また、これは誓いによらないで行われたものではありません。レビの系図の祭司たちは、誓いによらないで祭司になっているのですが、

ヘブ7:21 この方は、誓いによって祭司となられたのです。神はこの方に対してこう言われました。“主はこう誓われ、その御心を変えられることはない。‘あなたこそ、永遠に祭司である。’”

ヘブ7:22 このようにして、イエスはいつそう優れた契約の保証となられたのです。

ヘブ7:23 また、レビの系統の祭司たちの場合には、死というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、多くの人たちが祭司に任命されました。

ヘブ7:24 しかし、イエスは永遠に生きているので、変わることはない祭司職を持っておられるのです。

ヘブ7:25 それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自身を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。

ヘブ7:26 このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から話され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。

ヘブ7:27 この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを捧げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。

ヘブ7:28 律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ8:1 今のべていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、

へブ8:2 人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。

へブ8:3 すべて大祭司は、供え物といけにえとを献げるために、任命されています。それで、この方も、何か献げる物を持っておられなければなりません。

へブ8:4 もし、地上におられるのだとすれば、律法に従って供え物を献げる祭司たちが現にいる以上、この方は決して祭司ではありえなかったでしょう。

へブ8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しであり陰であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、「見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ」と言われたのです。

へブ8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得手おられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。

へブ8:7 もし、あの最初の契約が欠けたところのないものであったなら、第二の契約の余地はなかったでしょう。

へブ8:8 事実、神はイスラエルの人々を避難して次のように言われています。「見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、新しい契約を結ぶ時が来る」と、

へブ8:9 `それは、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導きだした日に、彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らはわたしの契約に忠実でなかったので、わたしを彼らを顧みなかった'と、主は言われる。

へブ8:10 `それらの日の後、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである'と、主は言われる。`すなわち、わたしの律法を彼らの思いに置き、彼らの心にそれを書きつけよう。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

へブ8:11 彼らはそれぞれ自分の同胞に、それぞれ自分の兄弟に、「主を知れ」と言って教える必要はなくなる。小さな者から大きな者に至るまで彼らはすべて、わたしを知るようになり、

へブ8:12 わたしは、彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い出しはしないからである。

へブ8:13 神は、「新しいもの」と言われることによって、最初の契約は古びてしまったと宣言されたのです。年を経て古びたものは、間もなく消えうせます。

へブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ\*\*\*:

へブ9:1 さて、最初の契約にも、礼拝の規定と地上の聖所とがありました。

へブ9:2 すなわち、第一の幕屋が設けられ、その中には燭台、机、そして供え物のパンが置かれていました。この幕屋が聖所と呼ばれるものです。

へブ9:3 また、第二の垂れ幕の後ろには、至聖所と呼ばれる幕屋がありました。

へブ9:4 そこには金の香壇と、すっかり金で覆われた契約の箱とがあって、この中には、マンナの入っている金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の石板があり、

へブ9:5 また、箱の上では、栄光の姿のケルビムが償いの座を覆っていました。こういうことについては、今はいちいち語ることはできません。

へブ9:6 以上のものがこのように設けられると、祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります。

へブ9:7 しかし、第二の幕屋には年に一度、第祭司だけが入りはすが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます。

へブ9:8 このことによって聖霊は、第一の幕屋がなお存続しているかぎり、聖所への道はまだ開かれていないことを示しておられます。

へブ9:9 この幕屋とは、今という時の比喻です。すなわち、供え物といけにえが献げられても、礼拝をする者の良心を完全にすることができないのです。

へブ9:10 これらは、ただ食べ物や飲み物や種々の洗い清めに関するもので、改宗の時まで々せられている肉の規定にすぎません。

へブ9:11 けれども、キリストは、既に実現している恵みの第祭司としておいでになったのですから、人間の手で造られたのではない、すなわち、この世のものではない、更に大きく、更に完全な幕屋を通り、

へブ9:12 雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。

ヘブ9:13 なぜなら、もし雄山羊と雄牛の血、また雄牛の灰が、汚れた者たちに振りかけられて、彼らを聖なる者として、その身を清めるならば、

ヘブ9:14 まして、永遠の‘霊’によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。

ヘブ9:15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の元で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにはかなりません。

ヘブ9:16 遺言の場合には、遺言者が死んだという証明が必要です。

ヘブ9:17 遺言は人が死んで初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は効力がありません。

ヘブ9:18 だから、最初の契約もまた、血が流されずに成立したものではありません。

ヘブ9:19 というのは、モーセが律法に従ってすべての掟を民全体に告げたとき、水や緋色の羊毛やヒソブと共に若い雄牛と雄山羊の血を取って、契約の書事態と民全体とに振りかけ、

ヘブ9:20 “これは、神があなたがたに対して定められた契約の血である”と言ったからです。

ヘブ9:21 また彼は、幕屋と礼拝のために用いるあらゆる器具にも同様に血を振りかけました。

ヘブ9:22 こうして、ほとんどすべてのものが律法に従って血で清められており、血を長洲ことなしには罪の赦しはありえないのです。

ヘブ9:23 このように、天にあるものの写しは、これらのものによって清められねばならないのですが、天にあるもの事態は、これらよりもまさったいけにえによって、清められねばなりません。

ヘブ9:24 なぜならキリストは、まことのものの写しにすぎない、人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今やわたしたちのために神の御前に現れてくださったからです。

ヘブ9:25 また、キリストがそうなされたのは、大祭司が年ごとに自分のものでない血を携えて聖所に入るように、度々御自身をお献げになるためではありません。

ヘブ9:26 もしそうだとすれば、天地創造の時から度々苦しまねばならなかったはずですが。ところが実際は、世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。

ヘブ9:27 また、人間にはただ一度死ぬことと、その後には裁きを受けることが定まっているように、

ヘブ9:28 キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度芽には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ10:1 いったい、律法には、やがて来る良いことの陰があるばかりで、そのものの実体はありません。従って、律法は年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって、神に近づく人たちを完全な者にすることはできません。

ヘブ10:2 もしできたとするなら、礼拝する者たちは一度清められた者として、もはや罪の自覚がなくなるはずですから、いけにえを献げることは中止されたはずではありませんか。

ヘブ10:3 ところが実際は、これらのいけにえによって年ごとに罪の記憶がよみがえって来るのです。

ヘブ10:4 雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです。

ヘブ10:5 それで、キリストは世に来られたときに、次のように言われたのです。“あなたは、いけにえや献げ物を望まず、むしろ、わたしのために体を備えてくださいました。

ヘブ10:6 あなたは、焼き尽くす献げ物や罪を贖うためのいけにえを好まれませんでした。

ヘブ10:7 そこで、わたしは言いました。‘御覧ください。わたしは来ました。聖書の巻物にわたしについて書いてあるとおり、神よ、御心を行うために。’”

ヘブ10:8 ここで、まず、“あなたはいけにえ、献げ物、焼き尽くす献げ物、罪を贖うためのいけにえ、つまり律法に従って献げられるものを望みもせず、好まれもしなかった”と言われ、

ヘブ10:9 次に、“御覧ください。わたしは来ました。御心を行うために”と言われていました。第二のものを立てるために、最初のを廃止されるのです。

ヘブ10:10 この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。

ヘブ10:11 すべての祭司は、毎日礼拝を捧げるために立ち、決して罪を除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。

ヘブ10:12 しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、  
ヘブ10:13 その後は、敵どもが御自分の足台となってしまふまで、待ち続けておられるのです。  
ヘブ10:14 なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。  
ヘブ10:15 聖霊もまた、わたしたちに次のように証ししておられます。  
ヘブ10:16 “それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである”と、主は言われる。‘わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。  
ヘブ10:17 もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。”  
ヘブ10:18 罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。  
ヘブ10:19 それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。  
ヘブ10:20 イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。  
ヘブ10:21 更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、  
ヘブ10:22 心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。  
ヘブ10:23 約束してくださったのは真実な方なので、公に言い現した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。  
ヘブ10:24 互いに愛と善行に励むように心がけ、  
ヘブ10:25 ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合ひましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。  
ヘブ10:26 もし、わたしたちが真理の知識を受けた後にも、故意に罪を可笑し続けるとすれば、罪のためのいけにえは、もはや残っていません。  
ヘブ10:27 ただ残っているのは、信販と敵対する者たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れつつ待つことだけです。  
ヘブ10:28 モーセの律法を破る者は、二、三人の証言に基づいて、情け容赦なく死刑に処せられます。  
ヘブ10:29 まして、神の子を足げにし、自分が聖なる者とされた契約の血を汚れたものと見なし、その上、恵みの霊を侮辱する者は、どれほど思い刑罰に値すると思いませんか。  
ヘブ10:30 “復讐はわたしのすること、わたしが報復する”と言い、また、“主はその民を裁かれる”と言われた方を、わたしたちは知っています。  
ヘブ10:31 生ける神の手に落ちるのは、恐ろしいことです。  
ヘブ10:32 あなたがたは、光に照らされた後、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してください。  
ヘブ10:33 あざけられ、苦しめられて、見せ物にされたこともあり、このような目に遭った人たちの仲間となったこともありました。  
ヘブ10:34 実際、捕らえられた人たちと苦しみを共にしたし、また、自分もつとすばらしい、いつまでも残るものを持っていると知っているの、財産を奪われても、喜んで耐え忍んだのです。  
ヘブ10:35 だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。  
ヘブ10:36 神の御心を行って約束されたものを受けするためには、忍耐が必要なのです。  
ヘブ10:37 “もう少しすると、来るべき方がおいでになる。遅れられることはない。  
ヘブ10:38 わたしの正しい者は信仰によって生きる。もしひるむようなことがあれば、その者はわたしの心に適わない。”  
ヘブ10:39 しかし、わたしたちはひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です。  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ\*\*\*:  
ヘブ11:1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。  
ヘブ11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。  
ヘブ11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。  
ヘブ11:4 信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証

明されました。神が彼の献げ物を認められたからです。アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています。  
ヘブ11:5 信仰によって、エノクは死を経験しないように、天に移されました。神が彼を移されたので、見えなくなったのです。移される前に、神に喜ばれていたことが証明されていたからです。

ヘブ11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。

ヘブ11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

ヘブ11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。

ヘブ11:9 信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイザク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。

ヘブ11:10 アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。

ヘブ11:11 信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。約束をなさった方は真実な方であると、信じていたからです。

ヘブ11:12 それで、死んだも同様の一人の人から空の星のように、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです。

ヘブ11:13 この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものをてに入れてみませんでした、はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。

ヘブ11:14 このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているのです。

ヘブ11:15 もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのに良い機械もあったかもしれません。

ヘブ11:16 ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥とнаさいません。神は、彼らのために都を準備されていたからです。

ヘブ11:17 信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イザクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。

ヘブ11:18 この独り子については、“イザクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる”と言われていました。

ヘブ11:19 アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イザクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です。

ヘブ11:20 信仰によって、イザクは、将来のことについても、ヤコブとエサウのために祝福を祈りました。

ヘブ11:21 信仰によって、ヤコブは死に臨んで、ヨセフの息子たちの一人一人のために祝福を祈り、杖の先に寄りかかって神を礼拝しました。

ヘブ11:22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について指示を与えました。

ヘブ11:23 信仰によって、モーセは生れてから三か月間、両親によって隠されました。その子の美しさを見、王の命令を恐れなかったからです。

ヘブ11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、

ヘブ11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、

ヘブ11:26 キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。

ヘブ11:27 信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。

ヘブ11:28 信仰によって、モーセは滅ぼす者が長子たちにてを下すことがないように、過越の食事をし、小羊の地を振りかけました。

ヘブ11:29 信仰によって、人々はまるで陸地を通るように航海を渡りました。同じように渡ろうとしたエジプト人たちは、おぼれて死にました。

ヘブ11:30 信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。

ヘブ11:31 信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。

ヘブ11:32 これ以上、何を話そう。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。

ヘブ11:33 信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、

ヘブ11:34 燃え盛る日を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵群を敗走させました。

ヘブ11:35 女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。

ヘブ11:36 また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。

ヘブ11:37 彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放牧し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、

ヘブ11:38 荒れ野、山、岩穴、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。

ヘブ11:39 ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。

ヘブ11:40 神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ12:1 こういふわけで、わたしたちもまた、このようにおびただし証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか、

ヘブ12:2 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないうで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

ヘブ12:3 あなたがたが、気力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。

ヘブ12:4 あなたがたはまた、罪と戦って血を流すまで抵抗したことはありません。

ヘブ12:5 また、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れていません。“わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。

ヘブ12:6 なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。”

ヘブ12:7 あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。

ヘブ12:8 もしだれもが受ける鍛錬を受けていないとすれば、それこそ、あなたがたは庶子であって、実の子ではありません。

ヘブ12:9 更にまた、わたしたちには、鍛えてくれる肉の父があり、その父を尊敬していました。それなら、なおさら、霊の父に服従して生きるのが当然ではないでしょうか。

ヘブ12:10 肉の父はしばらくの間、自分の思うままに鍛えてくれましたが、霊の父はわたしたちの益になるように、御自分の神聖にあずからせる目的でわたしたちを鍛えられるのです。

ヘブ12:11 およそ鍛錬というものはk当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。

ヘブ12:12 だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい。

ヘブ12:13 また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。

ヘブ12:14 すべの人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。

ヘブ12:15 神の恵みから除かれることのないように、また、苦い根が現れてあなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚れることのないように、気をつけなさい。

ヘブ12:16 また、だれであれ、ただ一杯の食物のために長子の権利を譲り渡したエサウのように、みだらな者や俗悪な者とならないよう気をつけるべきです。

ヘブ12:17 あなたがたも知っているとおおり、エサウは後になって祝福を受け継ぎたいと願ったが、拒絶されたからです。涙を流して求めたけれども、事態を変えてもらうことができなかったのです。

ヘブ12:18 あなたがたは手で触れることができるものや、燃える火、黒雲、暗やみ、暴風、ラッパの音、更に、聞いた人々がこれ以上語ってもらいたくないと願ったような言葉の声に、近づいたものではありません。

ヘブ12:20 彼らは、“たとえ獣でも、山に触れれば、石を投げつけて殺さなければならない”という命令に耐えられなかったのです。

ヘブ12:21 また、その様子があまりにも恐ろしいものだったので、モーセすら、“わたしはおびえ、震えている”と言ったほどです。

ヘブ12:22 しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの呪いの集まり、

ヘブ12:23 天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、

ヘブ12:24 新しく契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。

ヘブ12:25 あなたがたは、語っている方を拒むことのないように気をつけなさい。もし、地上で神の御旨を告げる人を拒む者たちが、罰を逃れられなかったとするなら、天から御旨を告げる方に背を向けるわたしたちは、なおさらそうではありませんか。

ヘブ12:26 あのとときは、その御声が地を揺り動かしましたが、今は次のように約束しておられます。“わたしはもう一度、地だけではなく天をも揺り動かそう。”

ヘブ12:27 この“もう一度”は、揺り動かされないものが存続するために、揺り動かされるものが、造られたものとして取り除かれることを示しています。

ヘブ12:28 このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、恐れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。

ヘブ12:29 実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ13:1 兄弟としていつも愛し合いなさい。

ヘブ13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、来づかずに天使たちをもてなしました。

ヘブ13:3 自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。

ヘブ13:4 結婚はすべての人に尊ばれるべきであり、夫婦の関係は汚してはなりません。神は、みだらな者や姦淫する者を裁かれるのです。

ヘブ13:5 金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、“わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはいしない”と言われました。

ヘブ13:6 だから、わたしたちは、はばかりずに次のように言うことができます。“主はわたしの助けて。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。”

ヘブ13:7 あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。

ヘブ13:8 イエス・キリストは、きのう今日も、また永遠に変わることはない方です。

ヘブ13:9 いろいろ異なった教えに惑わされてはなりません。食べ物ではなく、恵みによって心が強められるのはよいことです。食物の規定に従って生活した者は、益を受けませんでした。

ヘブ13:10 わたしたちには一つの祭壇があります。幕屋に仕えている人たちは、それから食べ物を取って食べる権利がありません。

ヘブ13:11 なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。

ヘブ13:12 それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。

ヘブ13:13 だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。

ヘブ13:14 わたしたちはこの地上に永続する都を持っておらず、来るべき都を探し求めているのです。

ヘブ13:15 だから、イエスを通して讚美のいけにえ、すなわち皆をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう。

ヘブ13:16 善い行いと施しとを忘れないでください。このようないけにえこそ、神はお喜びになるのです。

ヘブ13:17 指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、神に申し述べる者として、あなたがたの魂のために心を配っています。彼らを嘆かせず、喜んでそうするようにさせなさい。そうでないと、あなたがたに益となりません。

ヘブ13:18 わたしたちのために祈ってください。わたしたちは、明らかな良心を持っていると確信しており、すべて

のことにおいて、立派にふるまいたいと思っています。

ヘブ13:19 特にお願いします。どうか、わたしがあなたがたのところへ早く帰れるように、祈ってください。

ヘブ13:20 永遠の契約の血によって羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、

ヘブ13:21 御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてください、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるよう。栄光が世々限り無くキリストにありますように、アーメン。

ヘブ13:22 兄弟たち、どうか、以上のような勧めの言葉を受け入れてください、実際、わたしは手短に書いたのですから。

ヘブ13:23 わたしたちの兄弟テモテが釈放されたことを、お知らせします。もし彼が早く来れば、一緒にわたしはあなたがたに会えるでしょう。

ヘブ13:24 あなたがたのすべての指導者たち、またすべての聖なる者たちによろしく。イタリア出身の人たちが、あなたがたによろしくと言っています。

ヘブ13:25 恵みがあなたがた一同と共にあるように。

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*:

ヘブ\*\*\*: